京都教区時報

京都教区広報委員会
（編集長　村上透磨）
京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075－211－3025
FAX 075－211－3041
honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page http：//www.kyoto.catholic.jp　4345

2022年 司教年頭書簡 コロナ時代を生きる信仰Ⅱ 「キリスト者の終活を始めよう」を受けて

第5回 人生とは火葬場への待合室です

今年の司教年頭書簡を読ませていただきながら、〈終活〉のために必要なメッセージを、若い日々からいただいていたことに気づかされます。

そのひとつは、二十歳前に出会った四十代半ばの宣教司祭からの問いかけでした。「あなたは老後をどう生きていくつもりですか？」と尋ねられ、思わず「まだ、私には関係がありません」と答えた時、「人は一日一日、歳を重ねていきます。豊かな老後を生きていくには今から準備しなければなりません…」と言われました。

それから四十余年が過ぎ、その司祭が病弱になり、軽い脳梗塞で不自由になっておられたある日、見舞うことができました。一日、ゆっくり昔話などをして過ごした帰りがけに、その司祭は、晴れ渡った青空を窓越しに見つめながら、明るい表情で言われました。「楽しいひと時をありがとう。こうして昔からのことを思い出しても、私には自慢できることは何もありません…。ただ感謝するばかりです」。この言葉がその司祭と交わした最期の言葉でした。その帰り道、彼が四十余年前のあの時、「私は、歳をとって身動きがとれなくなった時にも、感謝できる人になりたいのです」とおっしゃっていたことをあらためて思い出し、あの方は本当にそのように準備しながら生きてこられたのだと納得しました。

さらに、この司祭は私が二十歳を過ぎたころ、「人生とは火葬場への待合室です。火葬場の煙突をくぐっていく時、私たちは何一つ持っていくことができません。心ひとつで神の前に出て行くことになります。その時、神はただ『あなたは誰ですか』と尋ねるに違いありません」ともおっしゃっていました。また、十字架上であれほど苦しまれた主について、わたしたちが苦しみの孤独に陥る時、わたしたちを決してひとりにしたくなかった主の思いを語ってもくださいました。

そして、私の修道会入会時の門出の言葉は、こうでした。「これから、どこで生きていくとしても、二つのことを覚えておいてください。あなたが生きていく場で、責任者が悪ければ悪いほどあなたはもうかるのですよ。そして『何をしてくれますか？』という言葉はここにおいて行きなさい。どこに行っても、自分がそこで、何が問われているかを聴きながら生きていきなさい」。

最近、フランシスコ教皇様の執務室の入り口に貼ってあるというポスターを見つけ、自室の壁に貼っています。そこには、こう書いてあります。

〈「嘆き禁止」――あなたと他の人々の人生がより良いものとなっていくように 自ら行動しなさい。〉

これらの言葉が、〈終活〉の時を迎えている私を支えていてくれます。

カルメル修道会司祭（宇治修道院）　中川博道

フランシスコ教皇が大切にしているポスター

6
2022

大塚司教　司教叙階25周年
おめでとうございます！

大塚司教に25年を振り返っていただきました。

神の選びとわたしの召命

パウロ　大塚喜直

■教皇聖ヨハネ・パウロ二世による任命

わたしの司教任命書の日付は、1997年3月3日でした。この任命を知ったのは、3月初旬、当時のバチカン大使カルー大司教様に呼ばれ、司教任命を受諾するように言われた時でした。当惑しているわたしに、大使は司教任命に至るプロセスを延々と30分あまり英語で説明されました。頭の中はパニック状態でしたが、重要な説明を聞きのがしてはならないと英語に集中しました。説明が終わると、大使は任命を受けますかとお尋ねになりました。躊躇していると、それではもう一回説明してあげましょうと、先ほどの説明を最初から始められました。2回目の説明の間、この説明が終われば同じことを訊かれると予測できたので、断る理由を頭の中で考えました。

2回目の説明が終わりました。受けますかと問われ、アイ、アム、ツーヤング（わたしは若すぎます）と答えるのがやっとでした。それはデータで分かっています、断る理由になりませんと諭されました。ではもう一回説明しましょうと、なんと3回目の説明が始まりました。大使はよどみなく、それまでと同じ説明を繰り返されました。わたしはこのパターンが永遠に続くような不安に襲われ、いよいよ返事をしなければならないと覚悟しました。

3回目の説明も終盤に差し掛かったとき、それまでになかった説明が始まりました。それはこうでした。教皇様は司教任命を行われる時、必ず御父に祈ってから決められるのです。これを聞いたわたしの脳裏には、教皇様が跪まずいて祈っておられる光景が浮かびました。そして、この司教任命は神の選びなのだと悟りました。

■神の選びと召命

わたしはこどもの頃に司祭になりたいと思いました。そして司祭職への道を志し、司祭叙階の恵みをいただきました。しかし、司教任命は突然身に降りかかりました。旧約時代の預言者たちの召命のようです。エレミヤも、わたしは若いという言い訳は通用しませんでした。司祭叙階の時、主に生涯仕える決心をしたわたしは、大使から教皇が祈って決められると聞いて、司教任命を断れば司祭叙階の約束を自分で破ることになると思い至り、お受けしますと答えました。2時間ほど経っていました。この場面は今でも鮮明に覚えています。そして、新たな司教任命の発表があるたびに、この時の自分を思い出し、それぞれの神父様たちが皆同じように司教任命を受諾されたのだろうと、神の選びの不思議に思いを馳せています。こうしてわたしは、神の呼びかけには2種類あると思うようになりました。神は司祭になりたいという望みを人に与える一方で、突然人に任務を与えることもあるのだと。

■主がこれと思う人

マルコ福音書の十二使徒選定の場面

（3・13-16）は、新共同訳聖書では、イエスは山に登って、これと思う人々を呼び寄せられたとあります。フランシスコ会訳聖書では、自分の望む人たちをとあります。これらの訳を見ると、多くの弟子たちが比べられて、見所があると見込まれた人が使徒として選ばれたと解釈してしまいますが、聖書原典を調べると、その人にとってよかれと思い、その人を望まれた、というニュアンスのようです。選ばれた人たちの資質が問われたわけではないのです。

司教任命が公表されたあと、ある方から、あなたはイエスさまから愛されていますねと言われ、当時は正直その言葉を素直に受けとめることができませんでしたが、司教職を続けるうちに頷けるようになりました。主が人を呼ばれるのは、その人に資質があるからではなく、その人を愛されているからであり、どんな選びであっても、神の選びは無償の愛からのものなのだと。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」（ヨハネ15・16）。わたしは司祭としてイエスによって選ばれたがゆえに、自分の好きなことをするのではなく、イエスに倣い、御父が命じられ、御父が語られたことを行えば、実を結ばせることができ、しかも、その実が残るようにしてくださるのだと確信しています。

■司教職25年の感謝

わたしの司教任命がバチカンで公示されたのは、1997年4月1日ローマ時間12時でした。エイプリルフールの日です。日本では19時に一斉ファックスが配信されましたが、デマが飛び交っていると教区本部事務局に電話がありました。わたしこそ、デマであってほしいと思いました。司教叙階式は6月15日洛星高校の講堂をお借りして行われました。それから25年がたちました。司祭になって幸せですかとよく訊かれますが、だれも司教になって幸せですかと尋ねる方はおられません。きっと、司教という聖務の重さを推し量っておられるからでしょう。

今、京都の司教として第一に感謝することは、京都教区で働いてくださる司祭団に恵まれ、支えていただいたことです。司教叙階当時の先輩神父様たちは、若輩の司教を支え、教区運営を順調に進めていかなければならないという責任感からでしょうか、本当に未熟なわたしをよく支え、励ましてくださいました。

司教は司祭人事を行いますが、わたしの司教任命の体験から、それぞれの司祭に職務を与えるだけでなく、その人の人生の時間をそれに捧げていただくのだと荘重に考え、主に祈りつつ決定しています。

主は欠点と弱さを抱えたあるがままのわたしを、主の道具となるように呼ばれていますが、まだまだ主の無条件の愛を受けとめきれていません。どうぞ、京都教区の司教として主のしもべであるわたしのために、これからも皆様のお祈りをお願い致します。

大塚喜直司教　略歴

1954年10月7日　京都市にて誕生
1984年3月20日　司祭叙階
1997年6月15日　司教叙階

※写真は25年前の叙階式の時のものです。

典礼委員会担当司祭　菅原友明

今月のポイント
朗読者が「神のみことば」
一同は「神に感謝」

長年の混乱もこれで決着か！

皆様の教会では、第一および第二朗読の終了後、どのような所作がなされているでしょうか？　朗読者の唱える言葉が「神のみことば」だったり「神に感謝」だったり、あるいは沈黙だったりし、それに対する会衆一同の応答もまちまちかもしれません。多くの小教区で、この問題はたびたび悶着を引き起こし、議論が交わされ、一時的に統一されたとしても、いつしかまたバラバラになっていき、再び悶着がぶり返され…ということの繰り返しで、もはや何が正しいのか誰にもわからず、最近ではあえて誰もこの問題を口にしないことが暗黙の了解になっている感もあります。無理な統一をあきらめるというこの現状は、多様性と豊かさが尊重される時勢にも適い、一つの見事な到達点なのでしょう。

もともとラテン語規範版では、明確に、**朗読者が「神のみことば」と唱え、一同が「神に感謝」と唱える**と規定されており、これに従う限り議論の余地はなかったのですが、典礼を各国の文化に適したものとするための努力工夫がなされなければなりません（※1）。これが「日本への適応」と呼ばれる要素です。今回の改訂では、現行版に採用されていた日本への適応（※2）が、上述のような混乱や不一致を引き起こしていたことを反省し、**朗読者が「神のみことば」と唱え、一同が「神に感謝」と唱える**と、ラテン語規範版に従うものに改められました。結果的に大きな回り道をしたことになりますが、決して失敗でも無意味でもなく、この経緯の中で、日本の教会が学んだ豊かさ、深められた交わりは貴重な賜物です。

さらには、朗読後の言葉のやり取りはラテン語規範版通りになったとはいえ、引き続き、日本への適応も行われています。すなわち、この部分の全体は、**「朗読の終わりを示すため、朗読者は手を合わせてはっきりと唱える。『神のみことば。』一同は答える。『神に感謝。』続いて朗読者は聖書に一礼して席に戻る。一同は沈黙のうちに、神のことばを味わう」**となっており、朗読後の静けさを演出するという日本への適応は生きているのです。

はるかな歴史を思うとき、**神のみことば**を聞けることは、決して当たり前のことではありません。それは復活者を目の当たりにするに匹敵する奇跡と言えるでしょう。聖霊によるこの恵みを**神に感謝**し、**沈黙のうちに**、聞いた聖書の言葉を深く味わいましょう。

※1　第2バチカン公会議『典礼憲章』では儀式について「ローマ典礼様式の本質的統一を保ったうえで、特に宣教地において、それぞれの集団、地方、民族への順応と正当な多様性の余地が残されなければならない」（37）とうたわれています。

※2　現行版日本語ミサ典礼書では「朗読者は朗読の終わりを示すため聖書に一礼する。奉仕者は『神に感謝』と答える」と記されています。

＊＊＊＊＊　青少年委員会より　＊＊＊＊＊

高校生会「春の集い」宇治教会にて　3月29日開催

高校生会の春の集いを行いました。

午後2時に集合した参加者は、アントニオ神父様から日本26聖人殉教者を記念した聖堂の装飾についての説明を受け、自己紹介をし、それぞれが熱中していることを発表しました。当日の福音箇所（ヨハネ福音5章「ベトザタの池での癒やし」）を朗読し、解説を聞いた後、桜の花が咲き始めた宇治川の畔を散策して、3つの黙想地点で立ち止まりながら、福音の言葉を思いめぐらしました。教会に戻り、ミサの中では、ひとりひとりの感想を分かち合いました。宇治川の豊かな水の流れと、ベトザタの池の水が重なり合い、キリストの救いのわざを見つめる恵みの時間を過ごすことができました。最後に宇治教会の方々が淹れてくださったおいしい宇治茶と地元銘菓をいただき解散しました。今春の新入生・卒業生も含めて13名の高校生が参加し、短時間ではありましたが遠足も実施でき、コロナ禍でできていなかったことを少しずつ取り戻していける希望を感じました。宇治小教区の皆様からの温かいご協力にも感謝申しあげます。今夏も企画を予定しております。高校生の皆さんのご参加をお待ちしております。

高校生会担当司祭　菅原友明

中学生会 春の集い「久しぶりも初めましても対面で！」　3月30日開催

昨年冬から対面での開催を復活させることができた中学生会ですが、2022年春の集いも大津教会にて無事開催することができました。本来の形の合宿はまだ行えませんでしたが、みんなが顔を合わせて話す機会ができたことを大変うれしく思います。初対面の子も、冬の集いぶりの子も、レクリエーションを通して仲を深めることができ、休憩時間中も楽しく話している声が聞こえていました。

分かち合いでは教会がどんなものになってほしいかというのをテーマに、自分の所属教会のことを話したり、友達の教会について聞いたりして、これから教会のために何ができるかを各々考えることができました。中学生たちの意見では、いろんな人にもっと気軽に教会に来てほしい、みんなで楽しく集まれる場にしたいなどがあり、中学生会リーダーとして私自身も何かできないかなと考えることができました。

参加した中学生たちは、友達にもリーダーにも積極的に話してくれて、短い時間でしたが深い交流ができたと思いますし、次の中学生会にもぜひ参加してほしいなと思います。

今回の春の集い開催にあたって準備してくださった保護者の皆様、大津小教区の皆様、本当にありがとうございました。

中学生会リーダー　東舞鶴教会　高橋ことみ

信仰教育委員会
「ミサを学ぶ」4月2日開催

報告　信仰教育委員会　奥埜 さと子

信仰教育委員会では、これまで教区の小学新5年生と新6年生対象に春休みを利用して、2泊3日の侍者合宿を行ってきましたが、コロナ禍で2年、侍者合宿を行うことができませんでした。今年も残念ながら合宿は断念しましたが、感染対策をしっかりとしながら、子どもたちにミサについて学んでもらう機会を作りました。

4月2日、「ミサを学ぶ」というテーマで、北野白梅町のヴィアトール修道会の聖堂をお借りし、ミサについて学びました。2年侍者合宿がなかったことを考慮し、対象は、新5年生・新6年生・新中学1年生・新中学2年生とし、感染対策の観点から、開催時間は午後2時から4時までの2時間としました。また、子どもたちの送迎をしてくださる保護者やリーダーには、時間的に一旦帰ることができないかたもいらっしゃるので、希望者には参観していただくことにしました。

当日は、晴天、桜が満開の会場で、新5年生2名、新6年生5名、新中学1年生2名、新中学2年生2名、新中学3年生1名の12名が参加しました。参加者は、楽しく、真剣に神父様のお話を聞いたり、祭壇で練習をしたりして、短い時間ではありましたが、充実した「学び」をすることができました。

この2年間、小教区のミサが無い期間があったり、ミサがあっても典礼奉仕ができない状態が今なお続いている教会があったりで、とても残念ではありますが、子どもたちに少しでもミサや典礼奉仕について学んでもらう機会が持てたことは、意義深いことであったと思います。コロナ禍は、いつまで続くのかわかりませんが、侍者合宿がいつか再開できる日がくるよう祈るとともに、合宿に代わる今回のような企画を開催することも、今後の課題であると感じました。

京都教区のホームページが新しくなりました！

まだ工事中のページもありますが、少しずつ充実していく予定です。ぜひ一度のぞいてみてください。

トマのつぶやき

ご昇天（イエスさまと冗談を言い合える日）

ご昇天、一番好きな祝日。復活祭やクリスマス、聖霊降臨はもちろんですが、ご昇天はイエスさまに対して、一番優しくなれる日、人間的になれる日。

毎年イエスさまに申し上げます。「この世でのお仕事、大変でしたね。世にあって担われた数々のご苦労…どうぞ今日はゆっくりお休みください。ひたすら御父と楽(Play)しんでください。遊(Play)んでください。そして、お祈(Pray)り(Play)も楽しんでください。

まことに愚かなことを申しました。笑わないでください。でも、イエスさまの日頃の労に報いたいという私の思い…ご理解ください。

もう一つ理由があるのです。私が生まれた日は、ご昇天の日だったと母から聞きました。あなたが楽しみに入られた時、私は地上に落とされました。だからあなたには私に「ひけ」を感じてもらわなければなりません。私をきっと天国に迎え入れると、固い約束をしてください。

こんな私の願い、主はどんな顔をして聞いておられるのでしょう。

愚かなことを申しました。愛するイエスさま。

広報委員会担当司祭　村上透磨

今年から18歳で新成人となりました。
今回は新成人になった4名が、今の思いを書きました。

＜唐崎教会　岡本満喜＞

私は今年、小学校の先生になるために大学に進学しました。大学生生活はすごく憧れていて、色々な県から来ている友達もいるので、これから楽しみです。履修登録やレポートなど、不安で心配なことも沢山ありますが、友達と助け合いながら乗り越えていこうと思います。これから4年間、夢を叶えるために前を向いて頑張ります。

＜唐崎教会　池田虹子＞

私は今年から大学生になりました。大学が始まる前は不安な気持ちでいっぱいでしたが、いざ始まってみると、新しい出会いがあり、自分が興味のあったことを学べてとても嬉しく思っています。もちろん新生活は慣れないことも多く不安なこともありますが、養護教諭になるという自分の夢を叶えるために4年間頑張りたいと思います！

＜西院教会　唐橋亜弥＞

この春から大学生になり新生活がスタートしました！　正直、高校生から大学生になったことの身の回りの変化に驚きつつも、新鮮で楽しい毎日を過ごしています。春休みには、中学生会のリーダーをさせてもらいました。4年前まではリーダーたちにお世話になる側だったのが、もうリーダーできる歳になったのか〜と思うと感慨深いものがありました。大学での勉強やバイトとの両立など不安は尽きませんが、その分新しい環境や人脈に足を踏み入れることがすごく楽しみです！　初心を忘れず、突き進んでいきたいと思います。

＜西院教会　荻野凌汰＞

成人するということを考えると、かなり不安を抱いてしまいます。成人することによる一番大きな変化は、自分の行動、言動に対する責任が今までよりはるかに大きくなることだと思っているからです。一方、大人になると、よりさまざまな場面で人と人との繋がりが増えると思うので、期待もしています。しかしまずは、成人するにあたって、今まで自分の成長に携わってくれたすべての人に感謝することを忘れないようにしたいです。

青年センターあんてな

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。

6月のお知らせ

教　区

聖書委員会

オンライン聖書講座

「人はなぜ病み、苦しむのか―聖書からの問い」

9日㊍配信「民の苦しみを見た神―出エジプト記」
講師：中川 博道神父(カルメル修道会)

23日㊍配信「苦しむしもべ―イザヤ書より」
講師：澤田 豊成神父(聖パウロ修道会)

YouTube 申込者限定配信　申込受付中

問合せ：075(366)6609　聖書委員会

広報委員会

教区時報の8月号の原稿締切日は6月27日㊊です。

ブロック

奈良ブロック

オンライン聖書講座(全5回)

今、愛を生き「いのち」をつなぐ
―ルカ福音書に学ぶ

第1回「時のしるしを祈りの中で知る」
講　師：中川 博道神父(カルメル修道会)
11日㊏ 9:00

第2回「神のいつくしみを知る」
講　師：山下 敦神父(大分教区)
25日㊏ 9:00

奈良ブロックHPから、どなたでも無料で9月5日まで視聴できます。

諸　団　体

京都カトリック混声合唱団

練　習：12日㊐ 14:00 洛星宗教研究館
25日㊏ 18:00
ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

現在活動休止中。再開時、団員には連絡します。

問合せ：075(951)4283 則武　隆

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練　習：9日㊍、23日㊍ 10:00
河原町教会2階楽廊

問合せ：075(701)3303 岡田久美

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会(聖書と典礼)

日　時：23日㊍ 13:00
場　所：希望の家地域福祉センター
住　所：京都市南区東九条東岩本町31-10
※新型コロナの状況により中止となる場合もあります。

問合せ：TEL・FAX：075(723)1135　傳 裕子

心のともしび　ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

ＫＢＳ京都　㊊～㊎ 朝5:55
㊏ 朝5:15
ラジオ関西　㊊～㊎ 朝5:00
㊐ 朝6:05

6月のテーマ「挨拶」
ホームページもご覧ください。
https://www.tomoshibi.or.jp

訃報

グレアム・マクドナル神父様
(心のともしび運動・東京教区)

2022年3月30日、京都市にて帰天。94歳。
1927年アメリカで誕生。
メリノール宣教会に入会し、
1958年に司祭叙階。
1960年宣教師として来日し、
西陣教会と衣笠教会で司牧。
1964年より「心のともしび運動」にて宣教活動に献身されました。神父様の永遠の安息のため、お祈りください。

点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎（たけざき）裕子さんまでお申込みください。
Tel・Fax/079（431）8601